

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 28 日作成)

委員会名	CAD と環境心理 WG	主 査 名：中村芳樹
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境心理生理小委員会	委員長名：讃井純一郎
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	将来的な建築設計は CAD を用いて行われるようになることは間違いないが、環境心理研究の成果を、このような将来の設計プロセスの中に上手く取り入れていくには、工夫が必要である。そこで本 SWG では、CAD 設計の現状と将来の展望を理解し、対応するための方法を探る。	
委員構成 (委員名(所属))	大山能永(大成建設)、添田昌志(東京工業大学)、宗方淳(東京大学) 熊澤貴之(岡山県立大学)、渡辺秀俊(文化女子大学)、秋田剛(東京電機大学) 松原斉樹(大阪府立大学)、鈴木広隆(大阪市立大学)、宇治川正人(竹中工務店)	
設置 WG (WG 名:目的)		
2004 年度予算	38,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	6/10・7名・活動方針、シンポジウムの計画、講師講演 そのほか、メールによって、議論、調整を行った。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>3/1 にシンポジウム「デジタルヒューマンと建築環境評価」を開催し、25 名程度の参加を得た。講師には、本 WG の主旨と最も関連が深いと考えられる産総研のデジタルヒューマンセンターの代表者も含まれ、それまでの WG 内での議論を踏まえた、充実した議論を展開することができた。これにより、今後の環境心理研究の展開方向を示唆することができた。</p>
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>今後の環境心理研究の展開方向を考える上での契機となるシンポジウムが、当初の予定通り開催できた。また、講師として、デジタルヒューマンセンターの代表もお呼びすることができ、本 WG の目的はほぼ達成されと考えられる。</p>
その他評価すべき事項	